

1	審議会名	令和2年度第2回上田市スポーツ推進審議会
2	日時	令和2年8月18日 午後5時から6時45分まで
3	会場	教育委員会 第1会議室
4	出席者	矢島会長、木島副会長、池田委員、野口委員、羽毛田委員、久田委員、廣川委員
5	市側出席者	中澤教育次長、池田スポーツ推進課長、青木丸子地域教育事務所長、樋口武石 地域教育事務所長、清水スポーツ推進担当係長、松澤スポーツ推進担当係長、 矢島主査、田中主任
6	公開・非公開等の別	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7	傍聴者	1人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和2年8月26日

## 協議事項等

## 1 開会（スポーツ推進課長）

2 挨拶  
会長

記録的な長い梅雨が終わったと思ったら、記録的な猛暑である。  
また、新型コロナの感染が拡大しており、世の中はこの話題ばかりである。この新型コロナでの経験を、新たな課題に対するスポーツのあり方や今私たちが取り組むスポーツ振興に役立てていければと思う。  
本日は、スポーツ推進計画の根幹にかかわる、課題と基本理念について御審議いただき、限られた時間ではあるが、できるだけ多くの方に御意見をいただきたい。

## 3 議事

## (1) 第二次上田市スポーツ振興計画（素案）について

事務局 （説明：上田市におけるスポーツ環境の現状 [資料 P. 25 まで]）

委員 大学では、今回のコロナウイルスでスポーツや体育の授業ができず、体育の授業もオンライン化されている。この様な状況の中で、やらされる体育、やらなければいけない体育を初めて離れた学生たちの、自分でプログラムを作り、自分一人でするスポーツへの「やる気」を感じた。施設や環境、きっかけがあれば、市内の大学生たちも健康で、積極的に学外でもスポーツをすると思う。

委員 前回の「若い世代が広報を見るのが少ない」という話を娘とした。確かに「広報は見ないがホームページは見たい」と言う。「何か分からないことや知りたいことがあった時、上田市のホームページは分かりにくい。知りたいことが早く検索できるホームページにしてほしい」との意見であった、参考にしてほしい。

事務局 担当課では、様々なタイミングを見てリニューアルに取り組んでいるが、御意見を頂戴しましたので、担当課に伝えさせていただく。

委員 一般の方にとっては量が多く、説明なしで読むのは大変だと思う。現状のまとめを一覧表にするなど、見てもらえる工夫が必要だと思う、検討されたい。

事務局 一般の市民の方にとって、分かりやすく、見やすく、ずっと入っていくという作り方は、本当に大事なことで考えている。現状だけでなく、この後御説明する課題も、体系図や一覧表などを組み合わせながら、分かりやすいことを心掛けながら作っていききたい。可能であれば、推進計画の概要版も作成するなど、少しでも多くの方に理解していただける取り組みにしていきたいと考えている。

事務局 （説明：上田市におけるスポーツ環境の課題 [資料 P. 26・27]）

委員 資料 21 ページのスポーツに関する情報のところで、「情報をどこからも得ていない」、「情報は不要である」と回答している人たちがいる。この人たちは、全くスポー

ツにかかわらない人たちが、それとも、どこからも得なくても情報は十分に得ているからいいという人たちのどちらか。

事務局 回答された方の意向・意思が、2つの視点のどちらで答えているかは、どちらの視点も考えられ、アンケート調査の結果だけでは分かりかねる。

委員 今の時代、「体を動かしたくない。」「ゲームをやっていたい。」という子どもが多い。小学生になる前に体を動かすことの楽しさを教えてあげることができれば、子どもたちがスポーツに関心を持ち、体を動かすようになると思う。そんなシステムがあればいいと思う。

事務局 3歳ぐらいまでに体を動かすことを経験していると、大人になってからも能動的に体を動かす傾向があると言われている。小学校へ上がる前の段階から経験させることができれば、その後につながり、体を動かす人たちが増えると考えられる。課題として、今後の施策の展開につなげていければと考える。

委員 地域のスポーツ推進委員を活用し、地域で子どもたちを集めて、楽しみながら体を動かす取り組みをどんどんやっていただけたらと思う。

事務局 こちらも課題の一つとして、施策の展開につなげたい。

委員 資料17ページの施設利用者数について、昨年度だいぶ減っている。グラフを見ると平成26年度も相当少ない。その後、だんだんに増えてきて、また減っている。なぜこのような形になったのか、想像できる理由はあるのか。

事務局 平成26年度の落ち込みについては、この年の7月下旬から8月にかけて、台風の相次ぐ接近や前線の日本付近での停滞などにより、各地で大雨となった、「平成26年8月豪雨」と言われる、夏の長雨の影響が考えられる。施設の増減の特徴をみても、屋外プールの利用者数が減っており、グラウンドが使えないことから大会が開催できないなど、気象の影響が利用者減少の要因の一つと考えている。

委員 増えて、また減って、また今度、増える可能性はどうか。

事務局 時代、時代で、何かしら注目を集めるものがあると、利用者は増えるかもしれない。時代や世の中の流れもあるので、利用者が増える可能性はあると思う。

委員 ここでは課題ということで、いろんな項目が挙がっている。なぜこうした課題が出てきたのかということや、この課題を解決するためにはどの様に取り組んでいくのかを話す機会はあるのか。

事務局 今回は、ここに挙げた課題を確認し、御意見をいただく場であり、この課題に基づいて、この後、第3章で目標を設定して、次回で、目標に対する施策や事業の展開を組み立てていくという流れになるため、ここでは課題について討議いただきたい。

事務局 (説明：第3章 計画の基本的な考え方 [資料P.28~30])

委員 今後の取組として、基本目標の生涯スポーツの振興、競技力の向上は、非常に大事なことだと思う。各スポーツ団体が競技力の向上や底辺拡大などに取り組んでいるが、底辺拡大を担うには、財源と人材が課題である。専門に教える有資格者の育成が必要であり、指導者を育成する具体的な体制整備を市民にもわかるよう計画に盛り込んでほしい。

事務局 指導者の育成については、今後の施策の展開の中で掲げていきたい。

委員 きちんと計画に盛り込んでいただき、各団体が役割を分担して市のスポーツ振興を担っていただければと思う。専任の指導者に任せないと底辺の拡大は厳しく、継続して取り組まないと成果は挙がらない。保育園児が遊びの中で、体を動かすことを楽しむところから、育てていく形が上田市でできればいいと思う。

委員 底辺拡大は、実際に大きな課題だと思っている。関係部局や団体が、いろんな垣根を越えて、知恵を出し合いながら取り組んでいただけたらと期待している。

アンケート調査の回収率37.3%という数字は、上田市の状況を把握するために信頼できる数字なのか。想定範囲内であるのか。

事務局 アンケートの関係については、人口規模に対して有効な調査、標本数ということで、1,500票を市内の18歳から79歳の方に無作為抽出で配布した。この数は、アンケート調査で最低限必要な意向を把握できる数字である。回収率も30%の半ば位まで行けば、概ね有効として捉えられるということであり、今回、回収率は37.3%なので、市民の意向は掴めていると考えている。

会 長 要望ということで、今回、基本目標が示され、次回からは施策などが出てくると思う。この計画の概要が1枚で分かる資料をお願いしたい。

2点目は、これから課題等を踏まえ施策を考えるとと思うが、全部を網羅すると膨大な量になり、全てクリアするのは難しいと思うので、重点的な項目などについて整理しておく必要があると考えるので検討されたい。

最後に、今後の委員会のスケジュールについて、事務局で考えている予定を示してほしい。

事務局 1点目、2点目につきましては次回に、また、3点目のスケジュールについても、資料として次回用意します。なお、おおまかなスケジュールについては、この後、御説明させていただきます。

(スケジュールの説明)

会 長 議事を終了し、事務局に進行をお返しする。

#### 4 その他

事務局 次回の審議会では、引き続き、第二次上田市スポーツ推進計画の素案について、御審議を賜りたいと考えている。

具体的には、第4章の推進計画の具体的な施策と第5章の推進体制について、御審議いただきたい。

日程については、10月の19日又は26日の週での開催を予定している。

#### 5 閉 会 (教育次長、スポーツ推進課長)